

## 平成 24 年 8 月の熱中症による救急搬送の状況

平成 24 年 8 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）  
を取りまとめましたので、その概要を公表します。

### 【資料】

[平成24年8月の熱中症による救急搬送状況](#)



(連絡先)  
消防庁救急企画室  
担当：日野原・伊藤・早川  
電 話：03-5253-7529  
FAX：03-5253-7539

# 平成 24 年 8 月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成24年8月中の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

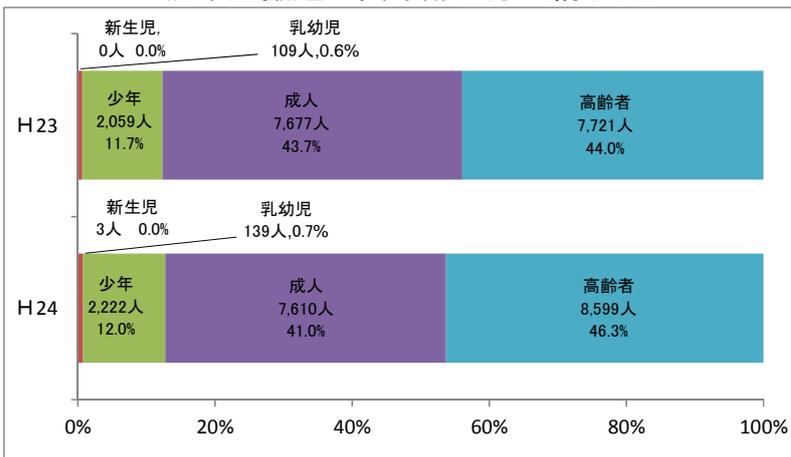
## 1 総数

平成 24 年 8 月の全国における熱中症による救急搬送人員は 18,573 人で、平成 23 年 8 月の熱中症による救急搬送人員 17,566 人と比べて、約 5.7%の増加となりました。（集計 1、集計 2、集計 3 参照）

## 2 内訳

(1) 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65 歳以上）が 8,599 人（46.3%）と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）7,610 人（41.0%）、少年（7 歳以上 18 歳未満）2,222 人（12.0%）、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）139 人（0.7%）の順となっています。（集計 1 参照）

熱中症搬送人員年齢区分（構成比）

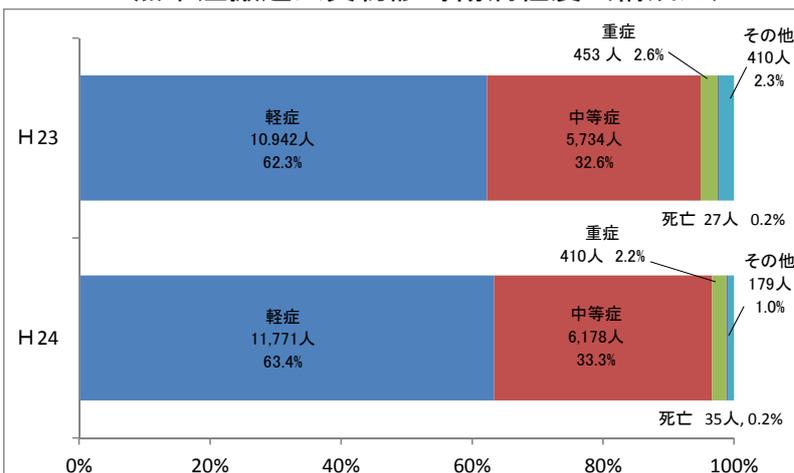


新生児：生後 28 日未満の者  
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者  
 少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者  
 成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者  
 高齢者：満 65 歳以上の者

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は 100%にならない場合があります。

(2) 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 11,771 人（63.4%）、次いで中等症 6,178 人（33.3%）、重症 410 人（2.2%）、死亡 35 人（0.2%）の順となっています。（集計 1 参照）

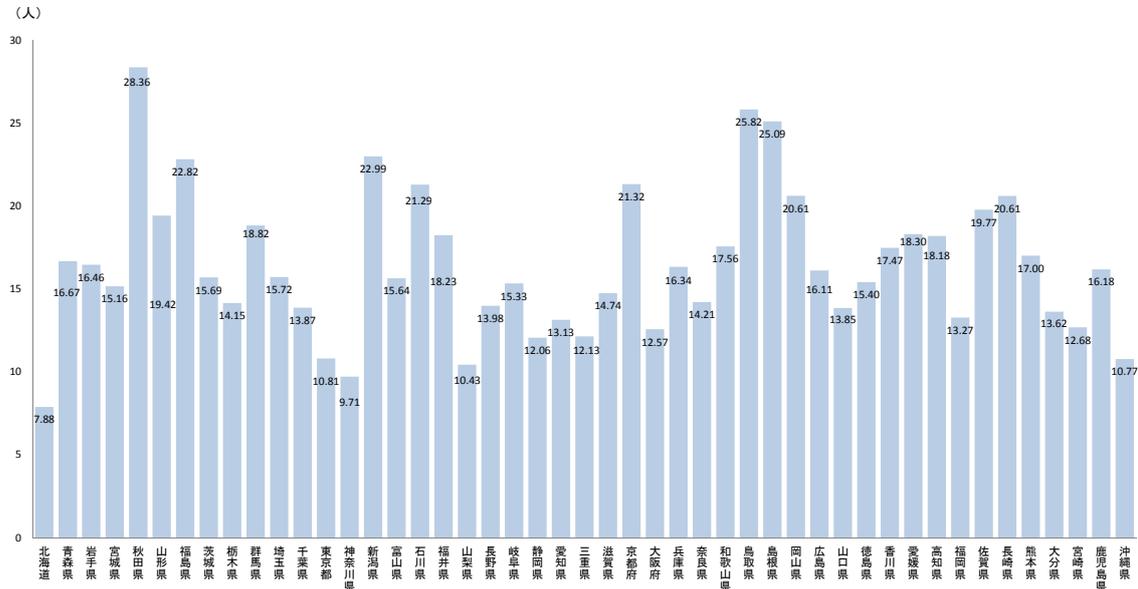
熱中症搬送人員初診時傷病程度（構成比）



軽 症：入院を必要としないもの  
 中 等 症：重症または軽症以外のもの  
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上  
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

(3) 都道府県別人口 10 万人当たりの熱中症搬送人員は、秋田県が最も多く 28.36 人であり、次いで鳥取県 25.82 人、島根県 25.09 人の順となっています。  
(集計 4 参照)

集計 4 平成24年8月都道府県別人口10万人当たりの熱中症傷病者搬送人員(グラフ) 総搬送人員 18,573 人



### 3 その他

熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。

消防庁では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症に関する情報及び毎週、熱中症による救急搬送状況の速報値を提供しています。

消防庁熱中症情報

[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

### 参考 (気象庁「8月の天候」より)

太平洋高気圧の勢力が日本の東海上で強く、本州付近に張り出したため、北日本から西日本では月平均気温が高かった。特に月初めは気温が平年を大幅に上回り広い範囲で猛暑日となった。その後は一旦平年程度に暑さはおさまったものの、月の後半は北日本と東日本を中心に気温が再び平年を上回り、所々で猛暑日となる状態が続いた。北日本と東日本では下旬の気温がかなり高く、北日本では 1961 年以降最も高かった。また、東日本を中心に晴れの日が多く、東日本と東北地方では日照時間が多く、降水量が少なかった。一方、西日本を中心に太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気や上空に寒気が流れ込んだ影響で、大気の状態が不安定となり、局地的な大雨や雷雨となった所があった。特に、13～14 日にかけて、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下し、本州付近に達した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。沖縄・奄美では、上旬に台風第 9 号、第 11 号、下旬には台風第 14 号や 26 日に沖縄本島付近を通過した台風第 15 号の影響を受けたため、8 月の降水量は統計を開始した 1946 年以降最も多く、日照時間はかなり少なく、気温は低かった。